

おきなわ写真展 “子や孫に残したい海”

～辺野古・大浦湾～

☆レンタルスペースチャクラ

- ・5月20日(土) 11時～19時
- ・5月21日(日) 11時～18時
- ・天神橋筋商店街 扇町駅と南森町駅の間(地図裏面)
- ・入場無料

☆MAGATAMA cafe × dining

- ・5月22日(月)～6月18日(日) 11時～21時
(cafe 営業中)
- ・JR/地下鉄玉造駅下車すぐ(地図裏面)
- ・写真家 牧志治さんお話し会(※詳細は裏面)
- ・6月4日(日) 16時半～18時半 開場16時
- ・参加費 予約1500円 当日1800円
- ・軽食、ソフトドリンク付き

Photo 牧志治

主催:ジュゴン保護キャンペーンセンター(SDCC)

写真家・牧志治さんよりメッセージ

透き通るようなターコイズブルーの穏やかな浅瀬の海が太陽の光にきらめき、白波を掻き立てるリーフ際まで広がる辺野古のイノー(礁池)。最も深い場所でも5Mほどのこの海域は、絶滅危惧種の海生哺乳類ジュゴンの絶好な餌場である。

ジュゴンの唯一の餌であるウミクサ類が7種も生育し、沖縄島で一番の豊かさを誇っている。その辺野古のイノーの東側には小さな島を挟んで大浦湾があり、辺野古のイノーとはうってかわって海底の起伏が激しく、深場は80mにも達する海域だ。

海況の荒れた日には、リーフ囲まれていながらまるで外海のような様相を見せる。このコントラストが辺野古・大浦湾を世界的な生物多様性の豊かな海に育て上げたにちがいない。

およそ5400種もの生きものが棲み、262種もの絶滅危惧種を育む、とてつもなく貴重なこの海を人間の手による嵐が襲い掛かる危機を迎えている。

この海の素晴らしさと、それを破壊して新たな米軍基地を建設しようとする日本政府に立ち向かう市民の姿を皆様にお見せしたい。



牧志さん近影



Photo 牧志治 墜落した海中のオスプレイ

牧志治プロフィール

1950年沖縄・コザに生まれ育つ。

1969年から1980年まで本土で生活する。業界紙の記者や広告代理店のコピーライターなどを経験して、故郷・沖縄に帰る。スキューバダイビングの指導員やガイドダイバーとして20余年活動。現在、セミリタイアの身でフリーランスのカメラマンとして沖縄県名護市東海岸の大浦湾一帯をフィールドに撮影している。抗議船の船長、およびヘリ基地反対協ダイビングチーム・レインボー代表としても活動中。

レンタルスペースチャクラ

5月20日(土)

11時~19時

5月21日(日)

11時~18時

天神橋筋商店街沿い

扇町駅と南森町駅の間



MAGATAMA cafe×dining (カフェ営業中)

5月22日(月)~6月18日(日)

EVERY DAY 11:00 - 21:00



◆JR環状線
「玉造」駅北出口
から徒歩1分

◆地下鉄
長堀鶴見緑地線
「玉造」駅4番出口
から徒歩2分

<http://www.magatama.net>
E-mail: cafe@magatama.net

沖縄から来阪! 辺野古の今を語る

~写真家・牧志治さんのお話し会~

日時: 6月4日(日) 16時半~18時半 (16時開場)

場所: MAGATAMA cafe×dining (写真展会場)

参加費: 予約1500円 当日1800円

※人数把握のため、なるべくご予約ください

去年の12月に墜落したオスプレイのスクープ写真は衝撃的。「神様が撮らせてくれた…」と牧志さんは言われます。辺野古・大浦湾を撮り続け、その海が壊されるのに心を痛め、作業を強行する政府に憤り、抗議船の船長として阻止行動を続ける牧志さん。

どうぞお話を聴きにきてください。

ジュゴン保護キャンペーンセンター・SDCCとは

日本では唯一沖縄の海に棲息する野生のジュゴンを絶滅の危機から守るために活動しているNGOです。現在、進められている辺野古新基地建設は、ジュゴンにとって貴重な海草藻場(えさ場)を埋め立てるものです。SDCCは『基地ではなく保護区を』と取り組んでいます。

【問合せ・予約】ジュゴン保護キャンペーンセンター関西事務所
メールアドレス: info@sdcc.jp TEL/FAX: 06-6353-0514

